

## 第5回ジャパンSDGsアワード「SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞」を受賞



<首相官邸にて行われた表彰式の様子>

恩賜  
 社会福祉法人 財団 済生会（東京都港区、理事長 炭谷茂、以下「済生会」）は、12月24日（金）首相官邸にて、SDGs 推進本部から、第5回ジャパン SDGs アワード「[SDGs 推進副本部長（内閣官房長官）賞](#)」を受賞しました。社会福祉法人としては初めての受賞となります。

本アワードは、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、オールジャパンの取り組みを推進するために、岸田内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部が優れた取り組みを行う企業・団体等の表彰を2017年から開始したもので、今年で5回目となります。

済生会は、明治44年に創設以来「施薬救療の精神」（無償で治療し、命を守る）を体現すべく、①生活困窮者への援助の積極的促進、②地域医療への貢献、③総合的な医療・福祉サービスの提供を果たすべき使命の3本柱として、医療・福祉が届きにくい人々への支援を1世紀以上にわたり取組んできました。

創設以来の根幹である生活困窮者支援「なでしこプラン」では、ホームレスの健診、子どもの貧困、刑務所出所者の地域生活、障がい者の就労等の支援を行っています。昨年度より総計1,641に上る「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」をとりまとめ、閉じこもる高齢者、健康無関心層、買い物難民、難病患者の就労支援等、既存の医療・福祉の枠を超え、差別や分断の無い社会の実現を目指しています。

済生会では、平成30年度からの中期事業計画にSDGsへの貢献を明記し、翌年4月に「[SDGs と済生会](#)」を発行、続編としてソーシャルインクルージョンのまちづくりをテーマに「[まちをつむぐ](#)」を令和2年7月に発行し、情報発信を続けています。その後、ソーシャルインクルージョンを普及・推進するためのサイト「[知る・見つける・支えるソーシャルインクルージョン](#)」を令和3年2月にリリースしており、今後も、差別や分断の無い社会の実現に向けて、行政機関、企業、各団体と協力、連携しながらSDGsへ貢献してまいります。

※ソーシャルインクルージョンとは、日本語に訳すと「社会的包摂」、社会的に弱い立場にある人々を含むすべての人が地域社会に参加し、共に生きていくという理念で、済生会が目指す社会のあり方です。この理念はSDGsの「誰一人取り残さない」とする理念と同じくするものです。